



日本化学連合

会長談話

日本の科学技術のゆるぎない発展のために、国が長期的な視点に立って科学技術政策を堅持し、科学技術を継続的に支援することを要望する。

いま、人類は、環境、エネルギー、安全等に関してこれまでにない大規模かつ不確実性の高い問題に直面している。これらの問題を解決し、豊かで持続的な社会を実現することは、人類的課題であり、そのために科学と技術の果たす役割が大きいことは論を待たない。そして、この問題解決に先進性を発揮することが日本の国際競争力を強めることであり、国際的な責任を果たすことでもある。

いうまでもなく、科学技術の成果は、一朝一夕に得られるものではなく、科学者、技術者の長年にわたる営々とした努力の積み重ねの上に達成されるものである。このことは、上に述べた問題解決型の科学技術もそうだが、人間の知的好奇心を駆動力とする純粋科学においてはとくに長い時間と地道な努力を必要とする。そしてその成果は人類が文化として享受することとなる。

いずれのタイプの科学技術においても、世界をリードする成果を得るためにもまたその成果を社会へ還元させるためにも、国が長期的な科学技術政策に基づいて継続的に支援し環境を整えることが不可欠である。このことを十分に理解され科学技術に対し不断の支援をされることを国に対し切に要望する。この意味で、関連して表明された総合科学技術会議有識者議員の緊急提言、日本学術会議会長の談話を支持するものである。

もちろん、限られた財源を有効に使うことは当然であり、そのための行政の努力は多とするものである。また、科学者・技術者の側においては、科学・技術に対する国民の負託の重さ、および厳しい財政事情の中から科学技術に振り向けられた国費の意義を十分に認識し、科学研究に真摯に取り組み、科学技術の成果が社会に正しく還元されるよう心がけるべきは当然である。

正味約 8 万人の構成員を擁する化学に関わる 17 学会・協会の連合組織である日本化学連合の会長として、国に対して以上の要望をするとともに、科学者・技術者には社会に対する責任を再確認することを求めたい。

平成 21 年 11 月 27 日

日本化学連合会長

御園生 誠